

平安京を護る朝日町の神々



しくみ

- 妙見神社 536.79km - 平安京大極殿 - 豊龍神社 536.79km
 ■〃〃〃〃 - 大沼浮島（出島）536.79km
 ■生松天神社 541.045km - 平安京大極殿 - 大谷西野天満宮 541.045km
 ■大田神社 541.49km - 平安京大極殿 - 白山神社 541.49km
 ■千寿院之滝千寿院 541.41km - 平安京大極殿 - 日月神社 541.41km
 ■光照寺 541.41km - 平安京大極殿 - 日月神社 541.41km
 ■妙玉寺（旧浄円寺）541.41km - 平安京大極殿 - 日月神社 541.41km

しくみ詳細

■ 妙見神社 536.79km - 平安京大極殿 - 豊龍神社 536.79km
■ // - 大沼浮島（出島）536.79km

妙見神社

詳細不明。妙見大菩薩 妙見宮とも言われた。大和町は律令時代以降の肥前国府があり古代佐賀の中心地だった。

佐賀市大和町大字久池井300

<http://www10.plala.or.jp/comainu/kasuga.htm>



平安京大極殿

桓武天皇は延暦3年（784年）に平城京から長岡京を造営して遷都したが、これは天武天皇系の政権を支えてきた貴族や寺院の勢力が集まる大和国から脱して、新たな天智天皇系の都を造る意図があったといわれる。しかしそれから僅か9年後の延暦12年（793年）の1月、和気清麻呂の建議もあり、桓武天皇は再遷都を宣言する。場所は、長岡京の北東10km、二つの川に挟まれた山背国北部の葛野郡および愛宕郡の地であった。事前に桓武天皇は現在の京都市東山区にある將軍塚から見渡し、都に相応しいか否か確かめたと云われている。日本紀略には「葛野の地は山や川が麗しく四方の国の人が集まるのに交通や水運の便が良いところだ」という桓武天皇の勅語が残っている。

「大極殿」の名は、万物の根源、天空の中心を意味する「太極」に由来する。すなわち、帝王が世界を支配する中心こそ「大極殿」の意である。



豊龍神社

承和11年（844）に延暦寺の僧安慧（あんえ・円仁の弟子）が奥州を巡り歩いて、講場をその地に開いた時、龍の神霊を祀って東五百川の鎮守として、別当「東守寺」を建立したと記されている。さらに慶長年間（1596～1615）に寒河江肥前の守が社殿を再建し、明治維新の廃仏毀釈によって豊龍神社となり、東守寺住職は復職して豊嶋氏を称したとする。

明和年間（1764～72）に左沢在住の松山藩医であった羽柴玄倫が誌した『宗古録』には、安慧がこの地に天台の教えを広める決意をしたとき「瑞巖美麗の姫大神」があらわれ「我こそ海童神（わだつみのかみ）の娘なり」と名のり「汝の護法善神とならん」と誓ってくれたのが豊玉姫大神であるという。

さらに、安慧みずから大般若経600巻を書写して筐（はこ）に納め、この山上に埋めたと述べ、山号を「宝経といい或は宝筐と作る」と書いている。

山形県西村山郡朝日町宮宿





大沼浮島（出島）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路にきた折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。

山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真/浮島と奥に出島）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。

備考

コンパスの円をたどっていると、大沼浮島でぶつかった佐賀大和の妙見神社にまたぶつかって驚いた。なんと、同じ朝日町にある大沼浮島と豊



龍神社は平安京大極殿から同距離。豊龍神社は大沼浮島の気を大極殿により強く送り込むために創られたといえる。この狭い同距離ラインのしくみはよくあるが、引き寄せだけではなく、気を送り込む意味もあったことに気づいた。やはり、しくみは相互作用があるようだ。

■生松天神社 541.045km -平安京大極殿- 大谷西野天満宮 541.045km

生松天神社

社伝に「後一条天皇寛仁三年、南蛮入寇し、若き男女を犯しかつ金穀を奪取す。因て当神社を勧請し、賊徒退散を祈願し弓矢を奉納す。今に十二月十五日たずの弓に白羽の矢を宮座当番より各三組を作り奉納す。」とある。後一条天皇は一条天皇の第二皇子。母は藤原道長女中宮彰子。



平安京大極殿

※上記参照

大谷西野天満宮

菅原道真が大宰府左遷の際に、側室一党が移り住んだとされる大谷地区。白田家が末裔とされ、村は風水に基づき小京都作りになっている。村内には白田家により四つの天神宮「大谷四天神（西野、北野、峯壇、高木）」が祀られていた。中心となっていた西野天満宮は本殿、拝殿、神楽殿、1間四面の末社が9社、そして仁王門や神楽殿もある大規模な神社だったが、文久3年（1863）に焼失し再建ならず。仁王門と末社一社が焼け残り、仁王門は隣接する永林寺の山門に、末社は隣町の熊野神社本殿に使われている。白田家は、神官一族とされ、大沼浮島の宿坊経営や近隣に多くの神社を作っている。山形県朝日町大谷



■大田神社 541.49km - 平安京大極殿 - 白山神社 541.49km

大田神社

祭神、大田命、猿田彦命。神功皇后が天目一箇神という山の鍛冶の神を祀った。大田命は猿田彦命の後裔に当たる神様で内宮のご鎮座に大きな功績を残された。大同二年（807）に書かれた古語拾遺に「天目一箇命 筑紫伊勢両国忌部の祖なり」とある 筑紫の祭地がわからなかったが 一貴山に祭る神ではないかと言われている。境内神社/愛宕神社 祭神/火産靈命、伊邪那美命（火伏の神）福岡県糸島市二丈一貴山



白山神社（旧跡地）

承和7年（840）加賀の白山権現より勘定したと伝えられている。その後、大江家や最上家より社領の安堵を受け、慶安2年（1649）徳川将軍より19石4斗余のご朱印地をいただいている。もとは村の中央にあったが、小学校と隣接していたため終戦後に進駐軍より命令され解体。昭和25年に大谷西野天満宮跡地とされる現在地に再建した。山形県朝日町大谷

■千寿院之滝千寿院 541.41km - 平安京大極殿 - 日月神社 541.41km

■光照寺541.41km - 平安京大極殿 - 日月神社 541.41km

■妙玉寺（旧浄円寺）541.41km - 平安京大極殿 - 日月神社 541.41km （5mずれ）

千寿院之滝千寿院

千寿院については不詳。平家の武将平重盛（1138-1179）の内室とその娘（千姫・福姫）と少数の家来が源氏の追求を逃れ、原田種直はここに隠れ住んだがまもなく源氏の追っ手によって殺害されたという。周辺には、重盛の遺髪を埋めたとされる黒髪塚、内室とその娘たちの墓所、都見石、千寿院の滝などがある。福岡県糸島市二丈満吉663-4



光照寺

宗派 浄土真宗本願寺派

由緒 菅原道真8世の孫良政、北野天満宮社職となり、その子良清代、同社に向かって右側の右近の馬場（道真の産湯の地）に由って、菅原を右近と改姓、その孫良遠、天永元年（1110）肥前国川副郷土師（諸富町）に下向、鍋島蛸久に移り（蛸久は太宰府安楽寺の庄園であった縁故で）、蛸久天満社職となり、その子満遠は蛸久・木の角200町の地頭となる。それより、5世良尚、千葉氏に属し弘安の役の軍功により大串50町加恩。慶長14年（1609）佐賀の築城が完成に近いころ、当時の肥前国府は蛸久にあったが、それを現在の佐賀へ移転するに当たって、藩祖直茂から、蛸久の地頭であり、社職であり、血縁関係もあったところから右近刑部は、城下町づくり支配の命を受け、企画・監督に当たった。その屋敷跡は六座町に右近（北面）天満宮として残っている。刑部の叔父慶念は浄土真宗に帰依出家得度、有縁の地大串に庵室を営み、慶長12年（1607）京都本願寺に詣で弥陀の尊像を受けて本寺を開基、光照寺と号し法名を浄慶と改め再び上京、第12世准如上人より宗祖の画像を受け97歳の長寿を保って示寂。嗣子として甥刑部の曾孫慶円、直茂公菩提のため出家第2代を継いだ。

佐賀市富士町大字大串796

妙玉寺（旧浄円寺）

室町時代後期に、当地の領主石井忠繁（佐賀藩祖鍋島直茂の義従兄）が、日来上人を招いて建立した。寺号は、忠繁の法名浄円院殿に因んでいる。江戸時代初期には、忠繁の大姪陽泰院（藩祖鍋島直茂正室、初代藩主勝茂生母）が、蓮池城の城門を山門として移築・寄進したという。以来、鍋島家の庇護を受け、鍋島家の外戚家門石井家の菩提寺として重んじられた。なお、妙玉寺はもともと当寺の境内にあったものが独立したものとされている。

佐賀市本庄町大字鹿子104

日月神社

田原家屋敷内の出来事。承和7年（840）天にわかには鳴動し、あたかも雷電のような響きをなし、四方八方に光を放ち、燦然と輝いた太陽と月のような二つの火の玉が飛来してきた。白山姫と姫を乗せてきた老翁の化身だとか。田原家は、この聖地に日月神社を建て手厚く祀ってきた。大谷白山神社も承和7年（840）に勘定したとされ、その末社として日月神社を創建したとも伝わる。近くには山形県で唯一の柱根式縄文遺跡「上河原山ノ神遺跡」がある。

山形県西村山郡朝日町舟渡

備考

山村の山形県朝日町にどうして平安時代創建の神社仏閣がいくつもあるのか不思議で調べてみた。やはり、平安時代は大朝日岳・大沼浮島のある朝日町を重要な右極の護りにしていたことがわかった。

そして大沼浮島の下流にあたる大谷地区。ここに住む菅原一族ののちの姓「白田」。白と田をつなぐと畠（秦）になる。菅原道真の側室一統がこの大谷に移り住む以前から住み着いていたのは秦一族ではないだろうか。秦氏が菅原道真を右大臣に仕立て平安京を護るしくみづくりを大朝日岳や大沼浮島のある朝日町周辺にて行っていた。道真が左遷され秦系側室一統を大谷に呼び寄せたのではないか。

江戸時代、大沼浮島のある大沼から天満宮や白山神社のある大谷、日月神社の船渡にかけて天領となっている。さらに御朱印寺社も多数あった。

■朝日嶽金輪寺

備考 大切なしくみが見つかったので次項で詳しく紹介する。